

令和7年度 学校関係者評価

長崎県立島原特別支援学校

1 外部評価の実施について

評価日：令和8年1月28日（水）

2 学校関係者評価委員 4名（学校評議員との兼務）

3 学校関係者評価の方法及び内容

令和7年度第2回学校評議員会の折に、学校評価の説明や結果報告及び意見聴取を実施した。

内 容
<p>【委員A】</p> <p>○小中高一貫の教育や指導は、保護者の関心が高いところ。将来どのような姿、どのような生活や社会人になるのか知りたいと思っている。</p> <p><対応></p> <ul style="list-style-type: none">将来を見通した進路指導や情報提供を引き続き行っていく。 <p>例) 卒業生による就労セミナー、小中高の授業参観の案内、中高生徒の交流学習や交流活動</p> <p>【委員B】</p> <p>○「人の幸せ」は、自分のしたことを相手が喜んでくれることだと気付いてほしい。</p> <p>○気さくに話しかけてくれる生徒がいて好ましい。</p> <p><対応></p> <ul style="list-style-type: none">地域貢献活動を積極的に行っていく。気配りのできる生徒を育成できるよう、日常の問い合わせや働きかけを工夫したい。話すこと、聞くことに力点を置いた国語の指導や、相手の気持ちを考えたり会話や話題に参加したりできるようコミュニケーションの指導を充実させていく。 <p>【委員C】</p> <p>○小学部時代の積み上げが、社会に出てから今役立っている。挨拶や支援の依頼ができるよ。</p> <p>○保護者と子供と一緒に巻き込んで育ててほしい。</p> <p><対応></p> <ul style="list-style-type: none">できること、できるようになってきたこと、もう少しできそうなこと、支援が必要なことを学部間で引継ぐ。そして、その子の社会生活での姿を思い描き、その子にとって必要な指導を保護者と共有し連携しながら確実な力を付けさせてていきたい。 <p>【委員D】</p> <p>○専門性の向上と働き方改革の両輪は難しいところ。</p> <p>○職員が健康第一で、目の前の子供たちに向き合ってほしい。できることは協力する。</p> <p><対応></p> <ul style="list-style-type: none">教員の業務を精査し、持ち時間を減らして授業準備や教材研究の時間を確保したい。実務（実際）の場を研修の（専門性を高める）機会として捉え、OJTで協働的かつ自主的、実践的な形でお互いを高め合えるように仕組みたい。必要に応じて外部専門家を活用する。